

# 所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第141号 平成30年9月28日

## 江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 Tel 381-1058

(主な内容)

- ・体育授業力向上のための研修会報告  
～中央小学校体育専科の公開授業～
- ・北海道教育研究所連盟函館大会報告

## 体育授業力向上のための研修会の報告 ～中央小学校体育専科の公開授業～



体育専科教員が配置されて3年目を迎えることから、去る9月14日(金)に中央小学校で、体育専科教員の澤 寛之先生と学級担任の後藤志穂先生、永坂健司先生の3名の指導者による3学年のマット運動の授業を公開し、これまでの取組や成果を発表していただきました。

準備運動や補助運動では、「カエルの足打ち」の二点倒立や「ブリッジ」の完成度の高さに思わず驚きの声が上がりました。主運動の後転練習では、運動の不得手な児童も楽しく取り組めるように坂マットや踏切板マット、数枚重ねマットなど6種類の練習する場を設定し、徹底したスモールステップでの指導が行われました。教師側の明快な指示や励ましだけでなく、友だち同士で技のポイントを見合う活動を取り入れ、指摘したり励ましたりする姿が多く見られました。

アンケート結果でも「大いに参考になった」が8割を超え、「足打ちやブリッジなど普段の取組の成果が感じられた」「分かりやすい言葉でポイントが明確だった」「色々な場の設定があり、苦手な子でも楽しく取り組める工夫があった」

「ペア練習では互いにアドバイスし、学び合いになっていた」など称賛の声がほとんどでした。

授業していただいた中央小学校の3名の先生たち、研究協議の司会をしていただいた文京台小学校の佐伯俊光先生、ご協力ありがとうございました。



# 平成30年8月30日(木)・31日(金)函館市 第73回北海道教育研究所連盟研究発表大会 兼第60回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

8月下旬に函館市で開催されました道研連の研究発表大会に、江別市教育研究所・島田が参加いたしました。その中の記念講演と部会研究発表の2点について報告させていただきます。

## 1. 記念講演

(1) 演題 「新学習指導要領の移行期間に、学校・教育研究所・研修センターは何をすべきか  
～『カリキュラム・マネジメント』『主体的・対話的で深い学び』の充実に向けて」

(2) 講師 国立教育政策研究所 教育課程調査官 渋谷 一典 氏

(3) 印象に残った内容

①狩猟、農耕、工業、情報の社会を経て、これからの社会はAIやドローン、自動走行車、無人ロボットなどの最新テクノロジーを駆使し、少子高齢化や格差などの社会的課題の解決と経済発展の両立を図るといふ我が国の目指すべき未来社会の姿が、第5期科学技術基本計画の中で初めて提唱された。

②新学習指導要領の一番の特長は、児童生徒の「何ができるようになるか」の資質能力を明確にし、全ての教科を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に再整理したことである。

③カリキュラム・マネジメントで最も大切なことは、児童生徒や地域の実態、教科の指導内容などを俯瞰(ふかん)し、教科横断の視点で組み立てることである。

④「主体的な学び」は、児童生徒が学ぶことに興味・関心を持ち、見通しを持って取り組み、振り返って次の学習につなげる。「対話的な学び」は、子ども同士の話し合い、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方等を手がかりに自分の考えを広げ深めるなど、「主体的・対話的な学び」は共通のイメージを持ちやすい。それに対して「深い学び」は、習得・活用・探究の学びの過程で各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる、知識を相互に関連付けてより深く理解する、精査した情報を基に自分の考えを形成する、問題を見出し解決策を考える、思いや考えを基に意味や価値を創造するなど、教職員一人一人のイメージに違いが生じやすい。教職員間の「深い学び」のイメージの共有が最大の課題となる。

## 2. テーマB 「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに関する研究」

(1) 研究発表1 「『道徳』の時間における児童生徒の道徳性の育成」

～主体的に考え、議論する展開の工夫を通して～

石狩教育研修センター 指導員 草野 智大 氏

(2) 印象に残った内容

①中心発問は、葛藤を生み出しながら、本時のねらいとする価値を追究させる重要な発問であり、多様な考えを引き出すことが必要である。

②補助発問は、中心発問を補うための発問であり、考えを具体化させたり、共通点や相違点に気付かせる「問い返し」、子どもの思考に疑問を投げかけることで思考を深めさせる「揺さぶり」等が考えられる。

③議論を活性化させるための手立てとして、話し合いの形態の工夫では、ペア・グループ・フリー・同じ考え同士・全体などがある。思考ツール・話し合いツールの工夫では、数値化・Y字チャート・心情グラフ・心情直線・バタフライチャート・選択肢カード・ダイヤモンドランキング・ネームカードなどがある。

④評価の手立てとしては、道徳振り返りシートからの見取り、授業中の見取りなどがあり、評価方法としては授業のねらいに即して評価する「パフォーマンス評価」、授業のねらいに関わらず努力しているところや成長しているところを評価する「エピソード評価」、評価の蓄積を基に継続的に見取る「大きくりな評価」がある。